



二中だより

第9号
令和7年12月24日(水)
柏江市立柏江第二中学校
TEL 03-3480-8891
FAX 03-5497-7362
<http://www.komae.ed.jp/jh/02>

2学期の終わりに ～勉強は、何のためにするの？～

校長 植村 多岐

本日、大掃除も終わり明日は終業式。長かった2学期も大詰めを迎えようとしています。2学期の二中学生の様子を見てみると「がんばろう」という前向きな気持ちと同時に、時に意欲が低下し「**どうして勉強しなければいけないんだろう？**」という、誰もが一度は抱く疑問や問いが心の奥にあるようにも感じます。今日は冬休み前に、その問いにももしかしたら少しでも寄り添えるかも…そんなエピソードを紹介します。

その内容は【ある先生が子どもだった頃、「**勉強なんて何のためにするの？**」と母親に尋ねたそうです。するとその母親は机の上にコップを置き、ゆっくりと静かにこう話し始めました。】

『数学』を学べば、この中に200mlの水があると“数字で見える”ようになる。

『理科』を学べば、この水が水素と酸素からできていることがわかる。

『社会』を学べば、この水がどこから来たのかを知り、世界には清潔な水を飲めない人がいることにも気付ける。

『美術』を学べば、この水が光を反射する美しさを描けるようになる。

『音楽』を学べば、同じコップでも水の量で音が変わることを発見できる。

『技術』を学べば、コップがどんな素材で、なぜ水が漏れないのかがわかり、人の“創造”のすごさを知ることができる。

『保健体育』を学べば、水が命を支える大切な存在だということが理解できる。

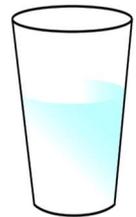
『道徳』を学べば、この水を誰かと分け合う思いやりの心が育つ。

『国語』を学べば、今話した“すべての意味”を正しく理解できるようになる。

『英語』を学べば、この話を世界中の人と分かち合えるようになる。

『哲学』を学べば、この話の“意味”を自分の言葉で考えられるようになる。

そして母親は、こう結んだといいます。「でも、もし何も学ばなかったら、このコップの中にあるのは“ただの水”で終わる。だから勉強するの。この世界を、ただ眺めるだけの人生で終わらせないために。」 インスタグラム『余命半年の教師の母が息子に言った「深すぎる」勉強の本当の意味』より



これは、私が偶然インターネットで見つけた言葉ですが、シンプルでありながら、深い意味を持っていると感じています。学ぶことは、世界の見え方を広げてくれます。同じ景色を見ていても、勉強した人とそうでない人とは、その豊かさを感じる力がまったく違うのです。勉強とは“ただ単に点数をとるためだけにする作業”ではありません。今皆さんが見ている世界を、より面白く、より深く、より自分らしく理解し、広げていくものなのです。

もちろん、勉強がいつでも楽しいとは限りません。3年生は今まさに受験期、うまくいかずに落ち込んだりすることもあるでしょう。それでも、みなさんの努力は確実に自分自身の視野を広げ、未来の選択肢を増やしていきます。そして「わかった!」「できた!」という小さな成功体験が、新しいことにチャレンジする勇気につながり、豊かな人生にもつながります。

2学期も最後となりました。これからも私たち教職員は「学ぶ楽しさ」を実感できる授業を目指し、共に成長していきたいと考えています。わからない時は遠慮なく質問してください。悩んだ時は一緒に考えましょう。そして、学びは一人ではなく、仲間と先生と、そして家族と共に努力を積み重ねていくものです。新しい年もみなさんが自分なりの“学ぶ理由”を見つけ、世界をただ眺めるのではなく、自分の手で未来を切り拓いていけるよう学校全体で応援していきます。今年も後わずかです。新年も生徒の皆さん、保護者の皆様、地域の皆様にとって良き年となりますよう教職員一同、心よりお祈り申し上げます。

3年生面接練習を終えて

12月1日から、スクールサポートスタッフの松村さんと協力し、3年生を対象に面接練習を実施しました。入試に面接がない生徒もいますが、将来を見据えると、就職、異動、転職など人生の節目では必ずといってよいほど面接の機会があります。面接経験のないまま大人になる人はほとんどいません。1・2年生にとっても来年度以降必ず向き合うテーマですので、この機会に面接のポイントをいくつかご紹介します。

(1) 動作は「ながら」でなく、「一つ一つを丁寧に区切る」

入退室の動作やあいさつは、同時に行うのではなく、順序立てて丁寧に区切ることが大切です。例えば、「ドアを開けながら礼をしない。言葉を発してから礼をする。」といった意識をもつと、動作にメリハリが生まれます。礼儀正しく見えるだけでなく、背筋が伸びることで緊張が和らぐともいわれています。また、面接官の視線が気になって緊張してしまう場合は、相手の額あたりを見るのも一つの方法です。一方で、「失礼します」「よろしくお願いします」「ありがとうございました」など、意志を伝える言葉は、しっかり相手の目を見て、力強く言い切ることが好印象につながります。

(2) 「見られている」のではなく、こちらから「自分を見せる」意識をもつ

面接官は、生徒の欠点を探すのではなく、「その人の良さを知りたい」「魅力を引き出したい」という姿勢で臨んでいます。よく聞かれる内容も、【志望理由、高校で頑張りたいこと、将来の夢や進路希望、中学校で学んだことや思い出】など、自身の成長や強みを語るものが中心です。準備の際には、自分の“売り”は何かを明確にし、委員会・係活動、部活動、習い事などでの努力の経験をもとに、「自分のストーリー(テーマ)」を整理しておくことが大切です。そうすることで、ただ覚えた答えではなく、自然で説得力のある話ができ、自分らしさがより魅力的に伝わります。



また、今回の面接練習で校長からは、ほぼ全員に「中学校3年間で、自分が一番成長したと思うところは何ですか？」と質問しました。「人前に立って話すことができるようになった」「相手のことを考えて行動できるようになった」「我慢強くなった」など、多くの生徒が3年間の成長をしっかりと言葉にすることができていて、大変嬉しく思います。

12月で面接練習はいったん終了しますが、希望があれば、年明けに2回目の面接練習を受け付けます。やる気のある人は、福長先生や担任の先生に申し出てください。ぎりぎりまでサポートしたいと思っています。

今回の面接練習が、卒業前の良い“まとめ”となり、周囲への感謝とともに、これまでの積み重ねてきた努力を前向きに振り返り、自信をもって表現できる機会となっていたら幸いです。